

■英語の諺 801-900

★20220610 高橋伸治

801

The best things in life are free.

日本語訳

人生において最高のものは無料である。

この言葉は、香水・バッグ・アパレルのブランドとして有名な「シャネル」の創始者ココ・シャネル（Gabrielle Bonheur Chanel）の言葉で、日本の諺には対応するものではありません。

この言葉には、「The second best things are very, very expensive.」

（二番目に良いものは、とてもとても高価です。）という続きがあり、こちらの方が言いたいことだったと思われま

802

The best of friends must part.

日本語訳

最良の友とも別れねばならない。

日本の諺としては、「友」に限定していませんが、古くは「逢うて別れは世の習い」、現代語では「会うは別れの始めなり。」が対応しています。

親友とも、最終的には「死が二人を分かたつまで。」ということですが、巡り合わせによっては、若い時に別れを迎えることもあります。

そして、生きていく中で、どんなに親しかった友でも。「Out of sight out of mind.」(去る者日々に疎し。)が世の習いと言えます。

803

The beginning of health is sleep.

日本語訳

健康の始めは睡眠である。

日本の諺としてはピッタリ対応するも

のではありません。

因みに、標記の諺に続く言葉として、

「The end of health is a sigh.」（健康の終わりはため息である。）があります。

関連して早寝早起きを奨励する諺として、「Early to bed and early to rise makes a man healthy, wealthy and wise.」（早寝早起きは男w健康に、豊かに、賢くする。）があります。

804

Ten years is ample.

日本語訳

10 年一昔。

日本の慣用句として、日本語訳と同様の「十年一昔」があります。

洋の東西を問わず、十進法を用いている文化においては、「十年」がけじめとしての単位と言えます。

因みに、英語には「decade」（十年）という言葉があります。

標記の諺中の「ample」は、「(あまるほど) 十分な」という意味の形容詞です。

「an ample supply of foods」（十分な食料の供給）のように使われます。

805

Talking to a brick-wall.

日本語訳

レンガの壁に話すこと。

日本の諺としては、「馬の耳に念仏」に通じるものがあります。

要は、反応がない相手や理解しようとしなない相手に話すことは無意味であるということです。

変化形として、「brick-wall」が「brick wall」と分れていたり、「a brick-wall」ではなく「the wall」であったりします、

また、前に「Like」を付けた「Like talking to a brick-wall.」も使われています。

806

Talk of the Devil.

日本語訳

悪魔のことを話せ。

日本の諺としては、「噂をすれば、影。」が対応しています。

この日本の諺は、江戸時代に十返舎一九の「東海道中膝栗毛」に登場し、江戸いろはかるたにも採用されています。標記の諺には続きがあって、「and he will appear」が加わります。

また、「Speak of」で始まるものもあり、「the Devil」が「Devil」であったり、

後半も「and he is sure to appear」であったり、多くのバリエーションがあります。

807

Take your time.

日本語訳

あなたの時間を取りなさい。

諺と言うより、日常会話と言えます。日本の慣用句としては、「どうぞごゆっくり。」や「急がなくていいですよ。」が対応しています。

英語で説明を加えるとすると、「There's no need to rush.」となりま



す。

状況や文脈によっては、稀に「良く考えてから返事をしろ。」というニュアンスを含むことがあります。

また、過去形の「You took your time.」は、「時間をかけやがって！」という詰りになります。

808

While there's life there's hope.

日本語訳

命がある間は希望がある。

日本の諺としては、少しネガティブですが、「命あっての物種」に通じるもの

があります。

標記の諺と同様に、逆境にある者を勇気づける、構造も似ている諺として、

「Where there is a will there is a way.」(意志あるところに道はある。)

が有名です。

また、「life」を含む有名な諺として

「Art is long life is short.」(技術は長く、人生は短い。)があります。

809

Take things as they come.

日本語訳

物事がやってくるように捉えなさい。

日本の慣用句としては、大げさに言えば「運命を受け入れよ。」ということになります。

要は、自分の身に起こったことに驚いたり困り果てたりしていないで、しっかりと受け止めて、むしろ最善の活用をなささいということです。

「take」は極めて意味が広い言葉ですが、ここでは日常会話でよく使われる「Take it easy.」（気楽にやれ。）のような使い方と言えます。

810

Safety lies in the middle course.

日本語訳

安全は中道にあり。

日本の諺としては、「中庸」が対応しています。

この「中庸」は、考え方や行動が極端にならないようにすることを意味し、紀元前後には儒教の中心的な教えとなっています。

洋の東西を問わず、極端に走ると危険であることは、人類にとって普遍的な経験則と思われます。

「Safety」を含む重要な標語として、「Safety first」があります。

811

No one knows what the future holds.

日本語訳

誰も未来が何を持っているか知らない。

日本の諺としては、「一寸先は闇」ということになりましたが、標記の諺の方がもう少しポジティブかも知れません。

「一寸先は闇」が暗い未来をイメージさせるのに対して、標記の諺は中立と言えるからです。

因みに、1950年代のヒット曲「ケ・セラ・セラ」の歌詞に、「The future is not ours to see.」（未来は私たちが見られるものではない。）という素敵の一節があります。

812

Shoemakers ' children go barefoot.

日本語訳

靴屋の子供たちは裸足で行く。

日本の諺としては、「紺屋の白袴。(こうやのしろばかま)」が対応しています。紺屋(こうや)とは染物屋の古称であり、売るための商品の染色を優先して、自分は染めていない白い袴を着けているということです。

標記も、商品の製造が優先されて、子どもの靴を作っていないということで

す。

標記の諺の原形は 16 世紀に存在し、変化形として、「Shoemaker's son always goes barefoot.」や、本人が裸足であるというものもあります。

813

Even thieves have their reasons.

日本語訳

泥棒でさえ、彼らの理由がある

日本の諺としては、「盗人にも三分の理」が対応しています。

「ああ無常」ではありませんが、運悪く貧困であるために、食べ物を盗むし

かななかったという原理的な理由もあれば、不用心だったために出来心で盗んでしまったという理由まで、様々ありそうです。

後者のケースに関連する諺として、「Opportunity makes a thief.」（機会が泥棒を作る。）というものがあります。

814

Step by step one goes far.

日本語訳

一步一步、人は遠くに行く。

日本の諺としては、「千里の道も一歩から」が対応しています。



究めて近い諺として、「Little by little one goes far.」や「Step after step the ladder is ascended.」（一段ずつはしごを登る。）があります。

因みに、「千里の道も一歩から」の直訳のような「Even the longest journey begins with a single step.」という諺もあります。

815

Sadness and gladness succeed each other.

日本語訳

悲しみと喜びは交互に続く。

日本の諺としては、「禍福はあざなえる縄の如し。」や「楽あれば苦あり。」が対応しています。

また、標記は、故事成語である「塞翁が馬」、あるいは「人間万事塞翁が馬」とも対応すると言われています。

しかし、これらは単なるランダムな禍福の繰り返しではなく、例えば息子の骨折が徴兵回避になったというように、前後のそれぞれの禍福が原因と結果になるという点が標記の諺とは違います。

816

Fear is often greater than the danger.

## 日本語訳

恐怖はしばしば危険よりも大きい。

日本の諺としては、「案ずるより産むが易し。」が対応しています。

経験のないことに対しては、必要以上に心配をしてしまいがちですが、標記はその恐怖を和らげるための言葉と言えます。

標記とは逆説的な言い方ですが、「An attempt is sometimes easier than expected.」（やってみると、想定していたより易しいことがよくある。）という諺もあり、「案ずるより産むが易し。」により近いと言えます。

817

Beggars and borrowers must be no choosers.

日本語訳

乞食と借り手は選択者であってはならない。

日本の諺としてピッタリなものはありませんが、「居候の三杯目」は通じるものがあるかも知れません。

標記の諺には「borrowers」がセットになっていますが、より一般的には「Beggars must not be choosers.」のように、「Beggars」だけで使われてい

ます。

また、意味が近い諺として、「Never look at a gift horse in the mouth.」

（もらった馬の口の中を見るな。）があります。

818

Cast not a clout till May be out.

日本語訳

5月が終わるまで衣服を投げるな。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

5月は寒の戻りのこともよく起こり、標記の諺は生活の知恵的な言葉と言え

ます。

「clout」は「影響力」という意味で認識されていますが、古い時代の北部イングランドでは「衣類」という意味で使われていたようです。

因みに、イギリスの5月に関する諺として、「April showers bring May flowers.」（4月の雨が5月の花を連れてくる。）があります。

819

There's no fool like an old fool.

日本語訳

年配の愚か者ほど愚かな者はいない。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

要は、「亀の甲より年の功」という諺があるように、基本的には年齢が高くなれば、より賢くなると想定されています。しかし、そうではない状況があるということです。

因みに、「亀の甲より年の功」に対応する諺として、「Years know more than books.」（年月は本よりも知っている。）などがあります。

19 世紀には登場する標記の諺は、とりわけ「色ボケ老人」を揶揄する際に使われてきたようです。

820

Count the cost before going to war.

日本語訳

戦争に行く前にコストを計算しろ。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

戦争が、自然発生的に行われるのではなく、事業としてのマネジメントが必要であることは紀元前にわかっていたようです。

武器を調達し、兵隊を集め、移動手段や食料の調達と輸送、陣をはるための手配など、「計画と準備」が必要となります。

標記の諺は、ビジネスにおいて比喻として使われいます。



821

Perseverance prevails.

日本語訳

辛抱が打ち勝つ。

日本の諺としては、「石の上にも三年」が対応しています。

「Perseverance」は「根気・辛抱」という意味ですが、それ以上に、「Curiosity」の後継として、2020年に火星で活動を始めた探査機の名前として知られています。

また、「prevail」は「広く一般に存在する・広がっている」という意味で知

られていますが、ここでは「打ち勝つ  
つ」という意味になります。

822

Rip up old sores.

日本語訳

古傷を搔きむしれ。

日本の諺としては、「古傷は傷みやすい。」というものがありませんが、これは季節の変わり目に起こる現象という意味であり、標記とは異なります。

「rip」は「引っ搔く・はぎ取る」という動詞ですが、短い言葉のわりにあま

り見かけない言葉です。また、「sore」は「傷・いやな思い出」などの意味があります。

要は、思い出したくないことや、触れてほしくないことを蒸し返されるのは避けたいものです。

823

Experience is the father of wisdom.

E 日本語訳

経験は知恵の父である。

日本の諺としては、「亀の甲より年の功」が対応しています。

その社会において、繰り返しの経験か

ら獲得される知恵は大変貴重なものと言えます。

同じ意味の諺として、「Experience is the best teacher.」があります。

ただし、経験だけへの依存を戒める、

「A fool learns from experience, a wise man learns from history.」（愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。）があります。

824

It's like fanning the sun with a peacock's feather.

日本語訳

太陽を孔雀の羽で仰ぐようなものだ。

日本の諺としては、「焼け石に水」や「二階から目薬」が対応しています。

要するに、太陽のもたらす熱を効果のない方法で冷まそうとしているようであるということです。

標記に近い諺として、「It is a mere drop in the bucket.」（バケツの中に一滴の水である。）や「It is like sprinkling water on parched soil.」（からからに乾いた土に散水するようなものだ。）があります。

825

The stake that sticks out gets hammered in.

## 日本語訳

飛び出ている杭はハンマーで叩かれる。

日本の諺としては、まさに「出る杭は打たれる。」が対応しています。

ここまで一致していると、どちらかが翻訳とも考えられますが、定かではありません。

同じ意味の諺として、「A nail that stands will be hammered down.」（立っている釘は叩きつけられる。）があります。

また、意訳した諺として、「Merit is envied.」（メリットはねたまれる）があります。

826

A man's walking is a succession of falls.

日本語訳

人の歩みは転倒の連続である。

日本の諺としては、「七転び八起き」が対応しています。

完全に転倒してしまうことは少ないにしても、日常生活においても躓いたり転びかけたりの一連の繰り返しと言えます。

標記の諺は、多少の失敗が続いても諦める必要はないという励ましの言葉です。

因みに、「七転び八起き」を直訳すると、  
「Falling down seven times, getting  
up eight.」でしょうか。

827

Even the longest journey begins with  
a single step.

日本語訳

最長の旅も単独の一步から始まる。

日本の諺としては、まさに「千里の道  
も一步から」が対応しています。

同じ意味の諺はいくつかありますが、

「A journey of a thousand miles must  
start with the first step.」が日本の



諺「千里の道も一歩から」に最も近いものと言えます。

因みに、人類にとっての「the longest journey」は、6万年前の北アフリカから南米までの「the Great Journey」だったと思います。

828

Wine is the panacea of all ills.

日本語訳

ワインはすべての病気の万能薬である。

日本の諺としては、「酒は百薬の長」が対応しています。

「panacea」はラテン語由来の「万能

薬・あらゆる問題の解決策」という意味の言葉です。また、「Panacea」（パナケイア）はギリシャ神話の「治療の女神」を意味します。

因みに、「wine」礼賛とも言える、「Good wine makes good blood.」（良いワインは良い血を作る。）というシャレた諺があります。

829

Both eloquent and skilled.

日本語訳

雄弁も技能も。

日本の諺としては、「口八丁手八丁」が

対応しています。

まず、「八丁」ですが、これは元は「八挺」であり、「手八挺」で「8種類の道具を使う技術」という意味になり、語呂合わせで「口八丁」が加わったというものです。

「eloquent」は「雄弁な・能弁な」という形容詞であり、名詞の「eloquence」を使った「Eloquence is silver, silence is golden.」（雄弁は銀、沈黙は金）という諺があります。

830

An outsider can see some things much better.

日本語訳

部外者の方が何かがよく見える。

日本の諺としては「岡目八目」あるいは「傍目八目」が対応しています。

当事者は、往々にして、物事の進行状況などが見えていないことが少なくありません。

「岡目八目」は囲碁の対局において、観戦している人の方が、対局者より戦局が見えていることを意味しています。標記と同じ意味で、「岡目八目」により近い諺として、「Onlookers see more than the players.」があります。

831

Well fed, well bred.

## 日本語訳

よく食べ物を与えられれば、育ちが良くなる。

日本の諺としては、「衣食足りて礼節を知る。」がほぼ対応していますが、標記には「衣」は含まれていません。

「食」はアブラハム・ハロルド・マズロー (Abraham Harold Maslow) の欲求段階説の第一段階の欲求であり、これが満たされないと社会性は生まれないとするものです。

「bred」は「breed」(子を産む)の過去分詞で、「well bred」で「育ちが良い」という意味になります。

832

Everything has its pros and cons.

日本語訳

すべてのことに長所と短所がある。

日本の諺としては、「一利あれば一害あり。」が対応しています。

「pro」は「賛成者・賛成理由」という意味であり、「con」はその逆で「反対者・反対理由」という意味です。概ね

「pros and cons」とセットで「賛否両方」として使われます。

また、ビジネス・マーケティング分野においては、「プロコン」というカタカ

ナ英語で、長所と短所をリストアップする際に使われます。

833

After me the deluge.

日本語訳

私の後、大洪水。

日本の諺としては、「後は野となれ山となれ。」が対応しています。

「deluge」はラテン語由来の「大水・大洪水」という意味で、「the Deluge」は「ノア(Noah)の洪水」になります。

変化形として、「After us the deluge.」や「After us, the flood.」がありま

す。

また、同じ意味になる、「The future will take care of itself.」（未来は自身で面倒をみるだろう。）があります。

834

One swallow makes not summer.

日本語訳

一羽の燕が夏を作るのではない。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

ツバメは渡り鳥であり、日本では夏と言うより春の鳥として、俳句の季語に



もそう分類されています。

要は、その季節の到来を示す現象だとしても、一日を境にガラッと変化することはないということです。

変化形として、「One swallow does not make a summer.」や「A single swallow does not make a summer.」があります。

835

In sickness, care first and medicine second.

日本語訳

病気には、看病が一番、薬が二番。

日本の諺としては、「薬より養生」が対

応しています。

一般的な薬とは、病原菌などを死滅させるものですが、看病は栄養補給や消毒、加えてメンタル面からの援助を行うことによって、免疫・自己治癒力を高めることです。

近代看護は歴史的には、19世紀から20世紀に活躍したフローレンス・ナイチンゲール（Florence Nightingale）の功績が大きい分野です。

836

This world is a stage and every man plays his part.

日本語訳

この世界は舞台であり、すべての男は

彼のパートを演じる。

日本の諺としては対応するものはありませんが、現実世界を演劇に例えることは少なくありません。

標記の諺は、最近になって成立した表現と思われませんが、由来は 16 世紀から 17 世紀に活躍したイギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare) の戯曲にあります。

因みに、原文は戯曲「As You Like It」(お気の召すまま) 中の「All the world's a stage.」です。

837

The darkest place is under the candlestick.

日本語訳

最も暗い場所は燭台の下である。

日本の諺としては、「灯台下暗し」が対応しています。

要は、強い明りの近くで影ができる部分が、その光陰のギャップで最も暗く見えるということです。

比喩として、自分のごく身近で起こっていることに気づかないのが人の性である場合に使われます。

因みに、日本の諺の「灯台」は船の案内としての「lighthouse」ではなく、室内行燈などを意味します。

838

Oysters are not good in the month that has not an R in it.

日本語訳

牡蠣はRが中に入らない月は良くない。

日本の諺ではないことは歴然ですが、このことは食の安全に利するものですので、広く知られています。

要するに、初夏から真夏の季節（May, June, July, August）には貝毒などの細菌が繁殖しやすく、腹痛などをもたらしやすことを、経験則として諺にしたものです。

因みに、これは「R-Rule」と呼ばれていて、結果として多くの人々を救って

きたわけです。

839

When you get angry, count ten.

日本語訳

あなたが怒った時、10 数えろ。

日本の諺としては、「短気は損気」が対応しています。また、標記と同様の慣用句もよく耳にします。

最近では、「anger management」という言葉が一般的になり、怒りのまま行動することのデメリットが広く知られています。

変化形として、「When you get angry,

count to ten.」があります。また、「before you do anything.」（何かをする前に）を加えるバージョンもあります。

840

Your mind controls your body.

日本語訳

あなたの心があなたの体を制御する。

日本の諺としては、「病は気から」が近いでしょうか。

要は、気力が満ちているか衰えているかによって、体の健康状態も変化するということです。

因みに、「病は気から」に対応する諺として「Fancy may kill or cure.」（想像が殺しもするし癒しもするかも知れない。）や「Illness starts in the mind.」（病気は心の中から始まる。）の方が有名です。

841

Every bean has its black.

日本語訳

すべての豆にはその黒がある。

日本の諺としては、「無くて七癖あって四十八癖」が対応しています。ここで、「癖」とは「良くない癖」のことであ



り、「誰にでも悪いところはある。」という意味になります。

標記は、外から見るとわからないが、「豆のサヤの中には、腐ったりしているものがある。」という意味です。

同じ意味の諺として、「Every man has his faults.」（誰でも欠点がある。）があります。

842

The face is the index of the mind.

日本語訳

顔は心の指標である。

日本の諺としては、「目は口ほどにもの

を言う。」が近いでしょうか。

「The eyes are the window of the soul.」（目は魂の窓である。）があります。確かに、興味や関心があるものを見る時、瞳孔が開くそうですが、それ以上に、目の周りの表情が喜怒哀楽を表します。

こう考えてみると、「The eyes are ~」よりも、標記の諺の方が優れていると言えます。

843

Jam tomorrow.

日本語訳

明日のジャム。

日本の慣用句としては、「口約束」あるいは「空約束」でしょうか。

標記の諺は、19 世紀イギリスの作家ルイス・キャロル (Lewis Carroll) の「鏡の中のアリス」に由来し、「Jam tomorrow and jam yesterday, but never jam today.」(明日のジャムと昨日のジャム、しかし、決してない今日のジャム。)の冒頭の部分です。

「結局ジャムの日はない。」ということであり、空虚な役に立たない約束の意味で使われます。

844

Set a beggar on horseback, and he'll ride to the devil.

日本語訳

乞食を馬に乗せろ、すると彼は悪魔のところまで乗り付ける。

日本の諺には対応するものが見当たりません。

これは、「貧しい人が少し金持ちになると、身を持ち崩してしまう。」という意味で使われます。

後半に「全速力で走ること」である「gallop」を使った、「Set a beggar on horseback and he will gallop.」や「Set a beggar on horseback and he will ride a gallop.」などの変化形があります。

845

Whom God loves, his bitch brings  
forth pigs.

日本語訳

神に愛されている者へは、彼の雌犬が  
豚を産む。

日本の諺には対応するものが見当たり  
ません。

「bitch」は、「あばずれ・尻軽女」な  
ど女性を罵倒する言葉として知られて  
いますが、元は「雌犬」のことであり、  
イギリスではアメリカほどひどい意味  
でないようです。また、「bring」は

「…を持ってくる」が基本的な意味ですが、古くは「産む」という意味でも使われていました。

標記はかなり奇妙な表現ですが、神からのギフトということのようです。

846

Short reckonings make long friends.

日本語訳

短い清算が長い友を作る。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

要するに、「Lend your money and lose your friend.」（あなたの金を貸して友

を失え。) という諺があるように、友人間で貸借はしない方が良いが、短期間で清算するのであれば、良いということです。

「reckon」は、「支払う・清算する」という意味でも使われます。

変化形として、「Short accounts make long friends.」があります。

847

Fear always springs from ignorance.

日本語訳

恐怖はいつも無知から発生する。

日本の諺としては、「幽霊の正体見たり

枯れ尾花」に通じるものがあります。  
要は、実態を把握していないために、  
より悪く想像してしまうということです。

逆に、「知らぬが仏」ということもあり、  
「blessed ignorance」や「happy  
ignorance」が対応しています。

「Fear」を主語にした、「Fear is  
often greater than the danger.」（恐  
怖はしばしば危険よりも大きい。）とい  
う諺があります。

848

To get is the gift of fortune, to  
keep is the gift of wisdom.

日本語訳



得ることは幸運の贈り物、保つのは知恵の贈り物である。

日本の諺としては対応するものが見当たりませんが、差し詰め、「得るは易く、保つは難し」ということでしょうか。要は、偶然にして獲得した物を持ち続けようとしたら、それなりの知恵を使って努力しなければならないということです。

「gift」を含む諺として、「Never look a gift horse in the mouth.」（もらった馬の口の中を見るな。）があります。

849

Painters and poets have leave to lie.

日本語訳

画家と詩人は嘘をつく許可を持っている。

日本の諺としては対応するものではありませんが、「講談師見てきたような嘘をつき。」という諺を連想させます。

要するに、画家は実写をベースにししながら、想像力で絵を描き、詩人は現実にはあり得ない状況を記述します。

「leave」は「離れる・残す・に任せる」という動詞として知られていますが、別の系譜の名詞として、「許し・許可」という意味があります。

「Painters」の代わりに「Travelers」を使った、「Travelers and poets have

leave to lie.」とう変化形があります。

850

A light purse makes a heavy heart.

日本語訳

軽い財布は重い心を作る。

日本の諺としては、堅い表現ですが、「恒産無くして、恒心無し」が対応しています。

因みに、「light」と「heavy」を入れ替えた「A heavy purse makes a light heart.」という逆パターンがあり、標記の諺はこのパロディとされます。

また、変化形として「A light purse

makes a heavy curse.」があり、「purse」と「curse」（呪い）で韻を踏んでいます。

851

Time and thought tame the strongest grief.

日本語訳

時と思考は最強の悲しみを和らげる。

日本の慣用句として、「時が癒す」が対応しています。

「tame」は、ここでは、「なくする・和らげる」という意味で使われています。変化形として、「Time and thinking

tame the strongest grief.」や「Time and thought tame the greatest grief.」があります。

同様の意味の「Time is a great healer.」（時は偉大なる治癒者である。）があります。

852

The crow thinks her own bird fairest.

日本語訳

カラスは自分の鳥が一番美しいと思う。

日本の諺としては、「親の欲目」が対応しています。

直訳ではわかりませんが、要は、自分

の子が一番であるとする親の言動に対して使われる言葉です。

変化形として、「The crow thinks her own bird whitest.」や「Every crow thinks its own bird bonniest.」があります。

因みに、上記の「bonny」はイギリス北部の方言で、「美しい・可愛い」という意味で使われます。

853

Take the bull by the horns.

日本語訳

牡牛を角で捕まえろ。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

要は、危険なことにでも勇気をもって、正面から対峙しろという意味です。よほどの怪力無双でないと、標記の諺のようにはできないと思いますので、概ね比喻としてしか使われなれないと思います。

冒頭の「Take」の代わりに、「Seize」や「Grab」が使われている変化形もあります。

因みに、同じ内容の諺はヨーロッパの各国にあるようです。

854

Let the cat out of the bag.

日本語訳

ネコをバッグから出させろ。

日本の諺としては、部分的ですが「口が滑る」に近いでしょうか。

要は、「うっかり、秘密を漏らす」ことを意味した表現です。

少し奇妙な逸話、「子猫をバッグに入れて豚の子と騙して売っていた時に、バッグが破れてバレてしまった。」に由来するそうです。

実際には、「Be careful of not letting the cat out of the bag.」（うっかり秘密を洩らさないように気を付けて。）のように使われます。



Revenge is a dish best served cold.

日本語訳

復讐は冷やして出された料理が最高である。

日本の諺には対応するものが見当たりません。

標記の内容の慣用句は古くからあるようですが、標記の表現は驚くべきことに、1982年のSF映画「スタートレック II カーンの怒り」(Star Trek II: The Wrath of Khan.) に登場したものです。

「revenge」に関しては、「Revenge is sweet.」(復讐は甘い。) という少し倒錯気味の諺があります。

856

A good wife and health is a man's best wealth.

日本語訳

良い妻と健康が男の最高の財産である。

日本の諺としては、良妻と健康の両方を含んだものは見当たりませんが、逆説的な「悪妻は百年の不作」があります。

夫婦という社会的な単位をベースに生きていく人間にとって、男性目線ですが、「A man without a wife is but half a man.」（妻のない男は男として半人前

である。) と考えられています。  
良妻に関する端的な諺として、「A good wife is a good prize.」(よい妻は宝である。) があります。

857

You cannot make a silk purse of a sow's ear.

日本語訳

豚の耳からは絹の財布はできない。

日本の諺には対応するものが見当たりませんが、「瓜のつるにはなすびは成らぬ。」が近いでしょうか。

文学作品などからの由来ではなく、ス

コットランド伝承の諺です。

要は、素材が悪ければ、良い最終製品はできないということです。

変化形として、「cannot」が「can' t」、また、「silk」が「satin」あるいは「velvet」に代わったものもあります。さらに、「of」を「out of」に代えたものもあります。

858

A great man and a great river are often ill neighbors.

日本語訳

偉大な人と大河はしばしば悪い隣人である。

日本の諺としては対応するものは見当たりません。

私やあなたにとって、両者とも望ましくない隣人であり、両者同志の相性が悪いということではありません。

要は、偉大なる人に対しては劣等感や気おくれがあるし、大河は往々にして氾濫するということです。

「neighbors」を含む有名な諺として「Good fences make good neighbors.」（良いフェンスが良い隣人を作る。）があります。

859

A learned blockhead is a greater blockhead than an ignorant one.

日本語訳

学んだ愚か者は無知な愚か者よりより  
偉大な愚か者である。

日本の諺としては、「生兵法はケガの元」  
が対応しています。

これは、18 世紀のアメリカの科学者・  
哲学者ベンジャミン・フランクリン  
(Benjamin Franklin) の言葉とされて  
います。

同じ意味の諺として、「Little  
learning is the dangerous thing.」が  
あります。

また、多少変化して伝承されたと思わ  
れる「A learned fool is sillier than  
an ignorant one.」という表現も存在

します。

860

A fool at forty is a fool indeed.

日本語訳

40歳の馬鹿は本当の馬鹿である。

日本の諺としては、「四十道楽は止まぬ。」が近いでしょうか。

論語にも「不惑」とあるように、40歳は人格完成の目安と言えます。

別の諺として、「Life begins at forty.」

(人生は40歳から始まる。)、また、アメリカの大統領エイブラハム・リンカーン (Abraham Lincoln) の名言、

「 Every man over forty is responsible for his face. 」 (40歳を過ぎたすべての男は、顔に責任がある。) があります。

861

Let every man praise the bridge he goes over.

日本語訳

すべての男に彼が渡ろうとしている橋を褒めさせろ。

日本の諺としては対応するものはありません。



ここでの「bridge」は採用しようとしている選択肢や手段のことであり、とりわけ、支援者が提供してくれた機会を意味するようです。

つまり、提供された機会に対して感謝をして、不平などを口にするなということです。

言わば、「Speak well of the bridge.」  
（橋のことを良く言え。）の意味になります。

862

The greatest hate proceeds from the  
greatest love.

日本語訳

最大の憎しみは最大の愛から生まれる。

日本の諺としては、「可愛さ余って憎さ百倍」に対応しています。

洋の東西を問わず、このような心理は一般的に認識されてきたようです。

「proceed」は基本的には「前進する・進む」という意味ですが、ここでは、「発生する・起因する」という意味で使われています。

「proceed」の代わりに、「spring」を使用した「The greatest hate springs from the greatest love.」という変化形があります。

863

He is lifeless that is faultless.

日本語訳

失敗なしの人はいない。

日本の諺としては、「なくて七癖」が対応しています。

因みに、上記の「癖」は「無害の癖ではなく、良くない癖」のことであり、「欠点」の意味になります。

標記は二重否定表現であり、多少混乱させる点がありますが、同じ意味の諺として、「We are all flawed.」（私たちすべてに欠点がある。）や「Every bean has its black.」（すべての豆に黒がある。）など数多くあります。

864

A proverb is an ornament to language.

日本語訳

諺は言語の装飾である。

諺自体に関する諺であり、日本の諺には対応するものは見当たりません。

そもそも、「proverb」という言葉の語源は「代わりの十言葉」であり、「あることの比喩的表現」ということになります。

文章や会話で諺に言及する際には、「As the proverb goes, 」を先に付けることになります。

また、「proverb」よりも日常的に使われる、諺・格言・慣用句までを含ん

だ言葉として「saying」があります。

865

Every failure is a stepping stone to success.

日本語訳

すべての失敗は成功への飛び踏み石である。

日本の諺としては、「失敗は成功の基」が対応しています。

標記は、20 世紀のイギリスの科学者・科学史家、ウィリアム・ヒューウェル (William Whewell) の言葉とされています。

同じ意味の諺として、「Failure teaches success.」（失敗が成功を教える。）や「Failure is the mother of success.」（失敗は成功の母である。）がありますが、標記の諺の方が優れていると思います。

866

Truth is stranger than fiction.

日本語訳

真実は虚構より不思議である。

日本の諺としては、「事実は小説より奇なり。」が対応しています。

上記は 1960 年代に NHK で放送された、

高橋圭三司会の「私の秘密」で冒頭に語られていました。

標記は、19 世紀前半に活躍した、イギリスの詩人ジョージ・ゴードン・バイロン (George Gordon Byron) の作品に登場する一文です。

その後、韻を踏んだ表現、「Fact is stranger than fiction.」として人口に膾炙しています。

867

Too much money makes one mad.

日本語訳

多すぎるお金は人を狂わせる。

日本の慣用句として、「金の亡者」がありますが、ピッタリなものは見当たりません。

最近では、個人資産 20 兆円を超える大金持ちが出現していますが、「Too much money」を持ったことのない私には「mad」の実感がありません。

別の諺として、「Money is root of all evil.」（お金は諸悪の根源である。）があります。

868

The fairest silk is soonest stained.

日本語訳

最も美しい絹が最も早く汚れる。



日本の諺としては対応するものが見当たりません。

美しいものは美しさ故に汚れやキズが目立つということでしょうか。

同じ「The fairest」や「The fairer」を使った諺として、微妙に意味が異なりますが、「The fairest flowers soonest fade.」(最も美しい花が最も早くしおれる。)や「The fairer paper, the fouler the blot.」(紙はきれいなほどしみが目立つ。)があります。

869

Curses come home to roost.

日本語訳

呪いは火あぶりのために家に帰る。

日本の諺としては「人を呪わば穴二つ」が対応しています。

「他人を呪って死を望むと自分の墓穴も掘ってしまう」という意味で使われます。

変化形として、「Curses, like chickens, come home to roost.」（呪いは鶏があぶられるために家に帰るように自分に返る。）があります。

また、「Curses return upon the heads of those that curse.」（呪いは呪う人の頭上に帰ってくる）があります。

Out of temper, out of money.

日本語訳

癩癩が出ると、金が出る。

日本の諺としては、「短気は損気」が対応しています。

「短気」は、自身の行動を慌てて行なうことと、怒りを他人にぶつけることの二つがあります。

標記はどちらの状況も考えられますが、どちらかというとな前者の方であり、

「Haste makes waste.」(急ぎが無駄を作る。)に通じます。

近い意味の諺として、「A hot-tempered man is liable to failure.」(すぐ怒る男は失敗しがちである。)があります。

871

A little leak will sink a great ship.

日本語訳

小さな漏れが大きな船を沈める。

日本の諺としては、「千丈の堤も 蟻の一穴 から」が対応しています。

上記は、「堅固な堤でも、蟻の小さな穴から崩落する。」という意味です。

標記は、18 世紀のアメリカの科学者・哲学者ベンジャミン・フランクリン (Benjamin Franklin) の言葉とされています。

「little」と「great」を対比させた諺

として、「Little strokes fell great oaks.」（小さな打撃が大きな樫の木を倒した。）があります。

872

Money is a valid passport anywhere.

日本語訳

お金はどこでも有効なパスポートである。

日本の諺としては、「地獄の沙汰も金次第」が対応しています。

「passport」の語源は、説明するまでなく、「通る+港」ですが、国際間の移動の際の身分証明に使われています。

「Money is power.」が代表的ですが、  
「money」に大きな力があることを表現  
する諺は少なくありませんが、、標記と  
同じ意味の最も端的な諺は、「Money  
opens all doors.」（お金はすべてのド  
アを開ける。）でしょう。

873

A little help is worth a deal of pity.

日本語訳

たくさんの同情よりも少しの援助が価値がある。

日本の諺としては、たいへん古いもの  
ですが、「思し召しより米の飯」が対応

しています。

上記は、「温かい言葉をかけるより、実質的な援助を。」という意味になります。1990年代のドラマ「家なき子」の中で繰り返された「同情するなら金をくれ!」という台詞を思い出しますね。

同じ意味の諺として、「Nothing is given so freely as advice.」（助言ほど無料で与えられるものはない。）があります。

874

An old man dipping into cold water.

日本語訳

冷たい水に浸かっている年配の男。

日本の諺としては、「年寄りの冷水」が対応しています。

これは江戸いろはかるたにもあり、冷たい水を飲むなとしたものです。

私自身もそうですが、昔は簡単にできたことなのに、少し無理をすると、できないでケガをしたりします。

要するに、過信しないで、無理なことはしないようにすることです。

因みに、「When old, obey your children.」（老いては子に従え。）という諺もあります。

875

A melon and a woman are hard to be known.



## 日本語訳

メロンと女性は知ることが難しい。

日本の諺としては、「女心と秋の空」や「女の心は猫の目」など、「よく変わる」とするものはありますが、標記に対応するものは見当たりません。

「melon」は日本で理解されている果物よりも「瓜」まで含む概念のようです。また、出来不出来や当たり外れがあるので、見極めが難しいという意味も加味されているようです。さらに、「melon」はその形状からスラングで「女性の胸」の意味もあります。

876

An oak is not felled at one stroke.

日本語訳

樫の木は一撃では倒されない。

日本の諺には対応するものが見当たりません。

ヨーロッパにおいて、樫の木は大きく強く、尊敬に値する木として認識されています。それ故の諺と言えます。

一方、一撃では倒せない樫の木も

、「Little strokes fell a

great oak.」(小さな複数の打撃が偉大な樫の木を倒す。) という諺もあり、この意味を強調するために、標記と合わせて使われいます。

877

If you love your child, send him out on a journey.

日本語訳

もしあなたが自分の子を愛しているなら、彼を旅に送り出せ。

日本の諺としては、「かわいい子には旅をさせよ。」が対応しています。

洋の東西を問わず同じ認識を持っていたということです。

注意が必要な点は、両者の諺が成立した時期の旅は、楽しいだけのものではなかったということです。

交通機関が発達していなかったため、足を痛めるほど歩き続け、様々な危険が行方を阻んだわけです。だからこそ、自身を鍛える貴重な経験だったと言えます。

878

Two dogs fight for a bone, and a third runs away with it.

日本語訳

二匹の犬が一本の骨のために争って、三匹目の犬がそれを持って脱げる。

日本の諺としては、「漁夫の利を得る。」が対応しています。

この「漁夫の利」は故事成語の一つであり、第三者が「争っている二者」の上前をはねることを意味します。

変化形として、「When two dogs fight for a bone, a third runs away with it.」があります。

因みに、標記はイギリス発祥ではなく、オランダの諺が翻訳されたものと言われています。

879

He who shoots often, hits at last.

日本語訳

度々射撃する彼はついには当てる。

日本の諺としては、「下手な鉄砲も数撃ちや当たる。」が対応しています。

しかし、標記の諺は「継続は力なり。」のニュアンスも読み取れり点が違います。

日本の諺に対応する諺として、「Fling dirt enough and some will stick.」

（泥を十分に投げれば、いくらかはくっ付くだろう。）がありますが、これも、「悪い噂を流し続ければ、イメージダウンする。」という意味で使われます。

880

Live as if you were to die tomorrow.  
Learn as if you were to live forever.

日本語訳

あなたは明日死ぬかのように生き、永久に生きるかのように学べ。

標記は、20 世紀インド独立の父マハトマ・ガンジー (Mahatma Gandhi) の言葉です。

要は、「今日を真剣に生き、一生学び続けろ。」ということです。

18 世紀のアメリカの科学者・哲学者ベンジャミン・フランクリン (Benjamin Franklin) の「Work as if you were to live 100 years, pray as if you were to die tomorrow.」を参考にしたものと思われます。

881

A lion may come to be beholden to a

mouse.

## 日本語訳

ライオンがネズミに見守られることになるかも知れない。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

標記の諺は、2,500年前のギリシャの作家イソップの寓話に由来します。

命を助けてもらったネズミがいつか恩返しすると言ったのを馬鹿にしていたライオンが罨から助けってもらったという話です。

因みに。ネズミを主語にした、「A mouse may help a lion.」というバージョンも存在します。



882

A light-heeled mother makes a heavy-heeled daughter.

日本語訳

踵の軽い母親は踵の重い娘を作る。

日本の諺としては対応するものはありませんが、一般的な認識と言えます。

よく気づき、すぐに行動するフットワークの良い母親がいると、何でもやってくれるので、依存体質の娘になってしまうということです。

家事をシェアしない私が言うのもなんですが、家事の自動化が進む中で、「母親が忙しくて気の毒だ」と思わなくなっただのではないのでしょうか。

883

Natural love descends but it does not ascend.

日本語訳

自然の愛は上から下へ流れるが、下から上へは流れない。

日本の諺としては、「親思う心にまさる親心」が対応しています。

「descend」は「上から下へ移動する」、

「ascend」は「下から上に移動する」という意味の動詞ですが、ほとんど名詞としての「descendants」（子孫）と「ascendants」（先祖）で登場します。標記の諺は、紀元前4世紀の古代ギリシアの哲学者アリストテレス（Aristotelēs）由来の言葉とされています。古くから親子の心理原則は変わっていないということでしょうか。

884

Beard the lion in the den.

日本語訳

巣穴でライオンに立ち向かえ。

日本の諺としては、「虎穴に入らずんば虎児を得ず。」が対応しています。

要は、価値のある物を獲得するためには、相手の土俵で勇気をもって対峙することが必要であるということです。

「beard」は「あご髭」という名詞で知られていますが、動詞として「…に大胆に立ち向かう」という意味があり、標記はこの意味で使われています。

「den」は動物の「巣穴」のことであり、ここでは相手の縄張りという意味になります。

変化形として、「in the den」を「in his den」としたものもあります。

The best revenge is massive success.

日本語訳

最高の復讐は圧倒的な成功である。

日本の諺としては対応するものはありませんが、内容は頷けるものがあります。

標記は、黒人歌手・俳優フランク・シナトラ (Frank Sinatra) の言葉とされています。

より端的な諺として、「Success is the best revenge.」があります。

因みに、「revenge」に関する別の諺として、「Revenge is a dish best served cold.」(復讐は冷やした料理が最高である。) や「Revenge is sweet.」(復讐

は甘い。) があります。

886

Never twice without three times.

日本語訳

三回目なしで二回目は無い。

日本の諺としては、「二度あることは三度ある。」が対応しています。

標記とは別の肯定文の諺として、「What happens twice will happen three times.」(2回起こることは3回起こるだろう。) や「Everything that happens twice will surely happen a third time.」(2回起こるすべては確

実に3回起こるだろう。)があり、こちらの方が分かりやすい表現と言えます。。

887

The greatest wealth is contentment with a little.

日本語訳

最大の財産は少しで満足することである。

日本の諺にピッタリ対応するものは見当たりませんが、「足るを知る。」が近いでしょうか。

小さな国がまるごと買ってしまう、20兆円を超える大富豪が存在する現在、

「wealth」とは何かが分らなくなっています。

変化形として、「The greatest wealth is to live content with little.」（最大の財産は少しに満足して生きることである。）があります。

888

When things are at the worst they begin to mend.

日本語訳

状況が最悪の時、それらは回復を始める。

日本の諺としては、「夜明け前が一番暗



い。」が対応していますが、これは「It's always darkest before the dawn.」という英語の諺の翻訳です。

洋の東西を問わず、太陽が最も力をなくす「冬至」を復活の始まりと、人類は考えて来ました。

近い意味の諺として、「The sharper the storm, the sooner it's over.」

（嵐は激しいほど早く過ぎる。）があります。

889

More die by food than famine.

日本語訳

飢饉で死ぬより食べ物で死ぬ人が多い。

日本の諺としては、あまり耳にしません  
が、「大食は命の取り越し」が対応  
しています。

キリスト教文化において、7つの大罪  
の一つに、「Gluttony」(大食)が位置  
付けられています。

同じ意味の諺として、「Many dishes  
make many diseases.」(多くの料理が  
多くの病気を作る。)や「Great eaters  
dig their graves with their teeth.」

(大食漢は彼らの歯で彼らの墓を掘る。)  
があります。

890

Continuity is the father of success.

日本語訳

続けることは成功の父である。

日本の諺としては、「継続は力なり。」  
が対応しています。

「continuity」は頻出単語ではありませんが、動詞の「continue」はよく目にする言葉であり、「to be continued」は、テレビドラマの「続く」という意味で馴染みがあります。

近い意味の諺として、「Persistence pays off.」（根気良さは報われる。）や

「Constant drippings wear away a stone.」（続いた点滴が石を壊す。）があります。

891

More have repented speech than  
silence.

日本語訳

沈黙より話したことを後悔する人の方が多い。

日本の諺としては、「口は災いの元」が対応します。

ただし、より対応している諺として、

「Out of the mouth comes evil.」（悪いことが口から来る。）があります。

こう考えると、意味的には「Silence is golden.」（沈黙は金）に近いと思わ

れます。

因みに、上記のロングバージョンは。

「Speech is silver, silence is golden.」であり、標記中の「speech」と「silence」が両方とも共通しています。

892

It is easier to say than to do.

日本語訳

言う方がするより易しい。

日本の諺としては、「言うは易く行うは難し。」がピッタリです。

このことは、洋の東西を問わず、普遍

的な経験則ということです。

類似の諺が多く、標記を受動態にした、

「It is easier to be said than to be done. 」や「Easier said than done. 」があります。

ユーモラスな諺として、「Do as I say, not as I do.」（私の言うようにしなさい、私のするようにではなく。）があります。

893

Merit is envied.

日本語訳

メリットは羨望を受ける。

日本の諺としては、「出る杭は打たれる。」が対応しています。

「merit」は一般的には「長所・得すること」と理解されていますが、「賞賛に値する優秀さ」というニュアンスがあり、それ故「妬みを買うこと」にもなるわけです。

因みに、「出る杭は打たれる。」にピッタリの諺として、「The stake that sticks out gets hammered in」（飛び出ている杭はハンマーで叩かれる。）があります。

894

Three, helping one another, bear the burden of six.

日本語訳

三人が互いに助け合えば六人分の荷物を背負える。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

標記の諺には前段として、「Each must bear his share of the burden.」（それぞれが自分の分の荷物を負わねばならない。）があり、それに加えて助け合うことを奨励しているわけです。

原理的には、「job」を「task」に分けて、それぞれが得意分野ごとに分業することによる生産性の向上でしょうか。

895

Love is a flower which turns into



fruit at marriage.

## 見本語訳

恋は結婚で実に変化する花である。

日本の諺には対応するものは見当たりません。

標記は、結婚披露宴でのスピーチに適した諺と言えます。

男女が愛を語り、結婚へと進んで行くのは、種の保存本能のなせる業と言えます。

因みに、標記の諺と正反対とされている、「Marriage is the tomb of love.」は、元々は結婚を奨励するポジティブな意図の言葉です。

896

Wall has ears, doors have eyes.

日本語訳

壁は耳を持ち、ドアは目を持つ。

日本の諺「壁に耳あり、障子に目あり」が対応しています。

ただし、標記は日本の諺の翻訳である可能性があり、「障子」を「ドア」と苦しい翻訳となっています。

イギリス古来の諺では、「fields」と「woods」が使われ、「Fields have eyes, and woods have ears.」（野原は目を持ち、そして森は耳を持つ。）とな

っています。

後段だけでは使われませんが、前段の  
「Wall has ears.」だけでも使われて  
います。

897

Poverty is not a crime.

日本語訳

貧困は犯罪ではない。

日本の諺としては対応するものがあり  
ません。

歴史的には、「Poverty is no sin.」（貧  
乏は罪にあらず。）があり、標記の諺が  
使われるようになったと思われま

また、「Poverty is not a shame; but the being ashamed of it is.」（貧乏は恥ではない、貧乏を恥じる事が恥なのだ。）という名言があります。

残念ながら、「Poverty is the mother of crime.」（貧困は犯罪の母である。）という諺もあります。

898

An apple a day keeps the doctor away

日本語訳

一日一個のリンゴが医者をお遠ざける。

日本の諺としては、「柿が赤くなると医者が青くなる。」があり、リンゴではなく柿が健康に良いとしています。

どうも、標記の諺が知られるようになって、日本でも「リンゴが赤くなると医者が青くなる。」とも言われるようになりました。

因みに、「a day」を省略した変化形もありますが、「away」との呼応を考えると、標記の方が優れています。

899

Science is nought worth without  
conscience.

日本語訳

良心のない科学はゼロの価値である。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

アインシュタインのような著名な科学者の言葉と想定されますが、定かではありません。

「nought」は「ゼロ」という意味の科学的用語であり、「naught」とも綴り、むしろこちらの方が一般的です。また、「conscience」は「良心」として理解されていますが、「良心」の内容は、「善悪の判断力・道徳心」ということになります。

Money is round, and rolls away.

日本語訳

お金は丸く、転がって去る。

日本の諺としては、「金は天下の回り物」が対応しています。

標記の諺のシャレている点は、「貨幣は丸いので転がって、手元からなくなってしまおう。」としていることです。

同様の諺は多く、「Money comes and goes.」や「Money goes around and around.」などがあります。

因みに、本人が愚かなためなくなってしまおうという意味の、「A fool and his money are soon parted.」（馬鹿と彼のお金はすぐに分かれる。）があります。